

シャリ ファ カルロ 米国出身の元キリスト教徒

:

明:

ムスリム女性を「解放」する目的でリクルートされた女性は、自分がイスラムを受け入れていることに 付きます。

目: [事新改宗者ムスリムの逸 女性](#)

より: シャリ ファ カルロ

日 8 Jul 2014

集日 28 Jul 2014



私がイスラムに改宗した は、「画」の になります。私は 画し、私が接触した 体は 画し、アッラ は 画したのです。そしてアッラ こそは最も良い 画者です。私は十代のとき、非常に 意に ちた 画を持つ 体の目に止まりました。彼らは政府 で く 人の集まりであり、特 な目的を持っていました。あるい未だ持ち けているのかも知れません。それは、イスラムの破 です。私の知る限り、それは政府の 体ではありませんが、彼らは米国政府における自分たちの役 を利用し、目的の 成を目 んでいるのです。

この 体のメンバ の一人が私に を持ちかけてきました。なぜなら私は滑舌かつ活 的な女性 の代弁者だったからです。そのメンバ は、もし私が中 に重点を置いた国 を学べば、エジプトの米国大使 での を 束すると言いました。彼は、私をいずれそこへ赴任させ、

ムスリム女性たちを扇 した女性解放 に着手することを望みました。私はそれがとても素晴らしいアイデアだと思いました。私がテレビで たことのあるムスリム女性たちは、抑 を被っている可哀想な人々といった印象で、彼女らに「自由」という20世 の光 へと いてあげたいと思いました。

そうした意 と共に、私は大学へと み、学 を 始しました。私はクルア ン、ハディ ス、イスラ ムの 史などについての基 情 をもとに、それらの知 をいかに利用すべきかという 方法 を学びました。私は言 の意味をねじ曲げ、私が望むことを彼女らに言わせる方法 を学びました。それは ある道具でした。しかしながら、ひとたび学び始めると、私はイスラ ムの教えに 味を抱き始めました。それは理にかなった教えだからです。私は怖 くなりました。それゆえ、その 持ちを中和するため、私はキリスト教のクラスを取り 始めました。私はキャンパス内で人 のあり、ハ バ ド大学で神学博士号を取った教授の クラスを びました。彼なら安心だろうと私は思いました。 にそうだったのですが、それは私が期待した理由によるものではありませんでした。この教授はユニテリアン主 のキリスト教徒でした。彼は三位一体やイエスの神格性について否定し、イエスが 言 者だと信じていたのです。

彼はギリシャ ヘブライ アラム 原典のバイブルを取り出し、それらがいかに改 されたか を示すことによってそのことを 明しました。その 程において、その改 がどのような 史 上の出来事を通して行われたのかを示しました。そのクラスを修了する には、私の宗 教 は破 されていましたが、まだ私はイスラ ムを受け入れる段 にはありませんでした。その も3年 に渡り、私は自分自身、そして将来の のために勉学を 行しました。その 、ム スリムたちに彼らの信条についての をしたりもしました。その内の一人に、MSA (ム スリム学生 会) のムスリム男性がいました。アルハムドゥリッラ 、彼は私のイスラ ム に する 味を き、 人的に私へのイスラ ム教育を施してくれました。アッラ が彼への を 加 されますように。彼はあらゆる 会において、私へのダアワ (イスラ ムへのいざない) を怠りませんでした。

ある日、その男性が私に し、来 中のムスリムのグル プについて教えてくれました。彼 は、私が彼らに会うことを望んでいたのもので、私は了承しました。イシャ (夜) の礼 、

私は彼らに会いに行きました。20人ほどの男性がいる部屋に私は れて行かれました。彼らは皆、私が座るためのスペースを作ってくれ、彼らのなかの 老のパキスタン人男性と向かい合った となりました。マ シャ アッラ 、彼はキリスト教に しても非常に博 でした。私は彼と、バイブルとクルア ンの相 点について、ファジル（明け方の礼 ）までり明かしました。そのとき、この英知に ちた男性が、キリスト教クラスを通して私が既に知っていることを ると、彼は他の 一人としてしなかったことをしました。彼は私がムスリムになるよう招いたのです。私が研究 をしていた3年 に渡って、私を招いてくれた人は一人もいませんでした。私は教わったり、 したり、中 を受たことすらありましたが、招かれたことは一度もなかったのです。アッラ が我々皆をお きになりますように。それゆえ、彼が私を招いたときは、正にぴったりのタイミングでした。私は、 は今だと感じました。私はイスラ ムが真 であることを知ったため、 を迫られたのです。アルハムドゥリッラ （アッラ に称 あれ）、アッラ は私の心を き、私は「はい、ムスリムになりたいです」と言ったのです。それから、彼は英 とアラビア によるシャハ ダ（イスラ ムの信仰 言）を促しました。アッラ に誓って言いますが、私はシャハ ダをしたとき、 めて不思議 な感 に捕われました。私は胸から巨大な 在する重しが引き げられるのを感じ、まるで生まれて初めてそうするかのように深く息を吸い んだのです。アルハムドゥリッラ 、アッラ は私の 去の罪をすべてまっさらに消し去り、新たな人生を与えてくれました。それはジャンナ（天国）に入るための 会なのです。私はムスリムとして残りの人生を生き、ムスリムとして死ねることが出来るよう祈っています。ア ミ ン。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/654>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。